CORONA

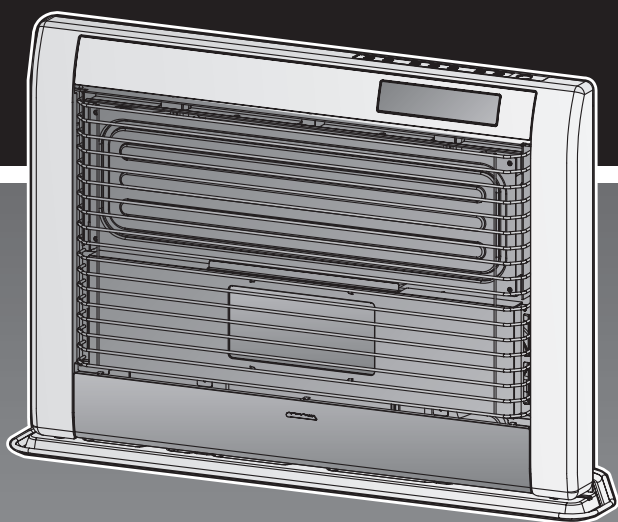
コロナ密閉式石油ストーブ

取扱説明書

お客様へ

本製品は消費生活用製品安全法（消安法）で指定される特定保守製品です。
法定点検を受けるために所有者登録を行ってください。
（製品に同梱した「所有者票」に記入し投函願います。）

〈保証書付〉保証書は裏表紙に印刷されています。

正しく使って上手に節約

型式 FF-AG6812H（エフエフ エイ ジー エイチ）

このたびは、コロナ石油ストーブをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
なお、お読みになった後もお使いになる方がいつでも見られる所に大切に保管してください。

もくじ

1．特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性または火災の可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本文中のマークは、次の意味を表します。

マーク	意味
	このマークは、「注意」していただく内容です。
	このマークは、してはいけない「禁止」を表しています。
	このマークは、必ず実行していただく「指示」を表しています。

⚠ 警告（WARNING）

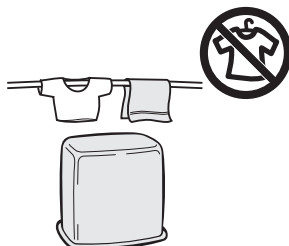
ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。少量の混入でも火災の原因になります。

スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを温風のあたるところに放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。

衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が乾燥すると、ストーブの熱気でゆれて、落下して火がつき、火災の原因になります。

給排気筒トップ閉そく危険

給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。
また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

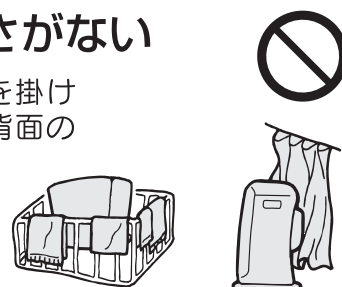
給排気筒（管、ホース）外れ危険

給排気筒（管、ホース）が外れたまま使用しないでください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

給排気筒トップには金網などは付けない

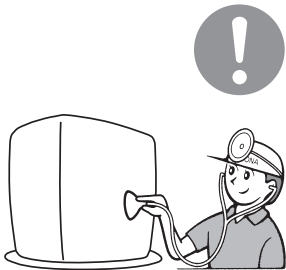
給排気筒トップには、虫よけのための金網などは付けないでください。
給排気の妨げになり、異常燃焼を起こし排ガスが室内に漏れる可能性があり危険です。

温風吹出口をふさがない

ストーブの前に干し物を掛けたり、カーテンなどで背面の空気取入口がふさがれると、本体が過熱して、操作部が変形したりやけどや故障・破損するなど大変危険です。

衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。
衣類、紙などでふさぐと、火災の原因になります。

警告（WARNING）

定期点検の実施

定期的(2年に1回程度)に点検･整備を受けてください。
点検を受けずに長期間使用し続けると､故障や事故の原因になり危険です｡点検･整備はお買い求めの販売店や資格者のいる店に依頼してください。

ご自身での据付け・移設工事の厳禁

お客さまご自身による工事は危険です。
据付け工事は販売店や専門業者にご依頼ください。
（ストーブを移設させる場合も同じです。）

注意（CAUTION）

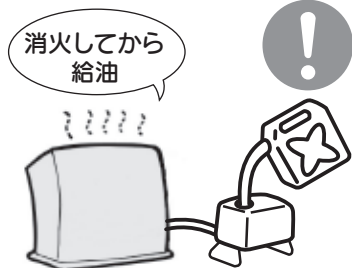
カーテン、寝具など可燃物近接禁止

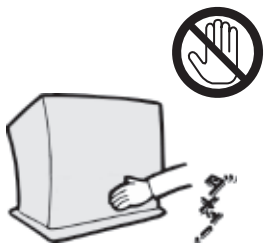
カーテン・布団や毛布など燃えやすいもののそばなどで使用しないでください。
火災が発生するおそれがあります。

可燃物との距離を離す

可燃物との離隔距離については標準据付け例（27ページ）を参照してください。

給油時消火

火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。

高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部（ストーブ前面や枠上部前面など）、給排気筒トップに手などふれないでください。やけどのおそれがあります。

●小さいお子様のいるご家庭では、特に注意してください。

腰をかけたり物をのせない

ストーブの上にのったり、腰をかけたりしないでください。ストーブの故障ややけどのおそれがあります。
ストーブの上に花びんや水を入れたものなどを置かないでください。水がかかると漏電や故障のおそれがあります。

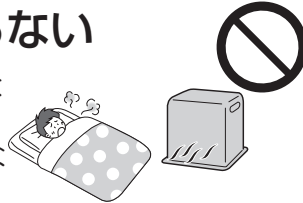
異常・故障時使用禁止

油漏れやにおい、すすの発生、炎の色など異常や故障と思われるときは使用しないでください。
事故の原因になります。

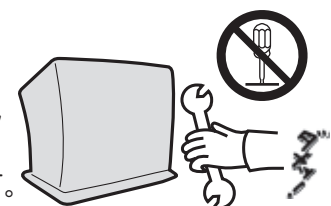
油漏れ確認

油タンク・ゴム製送油管・接合部・給油コックおよびストーブなどからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。
灯油が漏れていると火災のおそれがあります。

温風に直接あたらない

温風に直接長時間あたらないでください。
低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。

●特にお子様やお年寄り、体の不自由な方が使われるときは、周囲の人が十分注意してください。

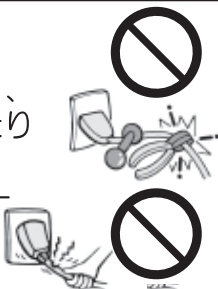
分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は、危険です。

改造使用の禁止

改造して使用しないでください。
また､ストーブや給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。
火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。

⚠注意（CAUTION）

電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、
傷つけたり束ねたり、物をのせたり
加工しないでください。
また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
火災や感電の原因になります。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときまたは保管するときは、
必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因になります。

灯油の保管

灯油は、火気、雨水、ごみ、高温および
直射日光を避けた場所に保管してください。
ガソリンなどと一緒に保管しないでください。
誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。

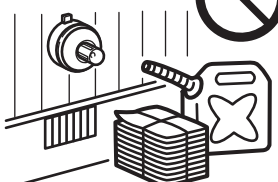
フィルタを外しての運転禁止

対流用送風機のフィルタを外した状態で
運転すると、カーテンなどを巻きこんで火災に
なるおそれがあります。
また手などふれるとけがをするおそれがあります。

電源の接続

電源は適正配線された単相100Ｖのコンセント以外は使用しないでください。
発熱・発火の原因になります。
電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。
発熱・発火の原因になります。

給排気筒付近の可燃物近接禁止

給排気筒トップの近くに、
灯油や可燃物など引火の
おそれのあるものを置か
ないでください。
火災のおそれがあります。

特殊用途には使用しない

食品・精密機器・美術品の保存や、動植物の飼育・栽培などには使用しないでください。

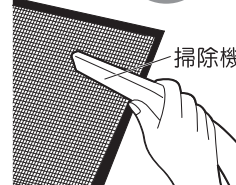
外出する時は消火

外出のときは、必ず運転を停止し消火してください。

電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで
確実に差し込んでください。
また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。
火災の原因になります。
ぬれた手での抜き差しはしないでください。
感電の原因になります。

ほこりの除去

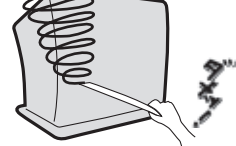
フィルタは、週1回以上必ず
掃除してください。
ごみ・ほこりなどでフィルタ
がつまると、送風力が弱くなり、
排気温度上昇やストーブの表面
温度が上昇する原因になります。

電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこり
および金属物を除去してください。
ほこりがたまると湿気などで絶縁不良
になり火災の原因になります。

不良灯油使用禁止

変質灯油（持ち越した灯油など）、
不純灯油（灯油以外の油・水・ごみが
混入した灯油など）などの不良灯油を
使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

指や異物を入れない

温風吹出口や空気取入口に指や
異物を入れないでください。
けがや火災のおそれがあります。

初めてお使いになるときの注意

初めてお使いになるときは、耐熱塗料
などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。
しばらくの間、窓をあけて部屋の換気
を行ってください。
また、小鳥や小動物などに影響する場
合が考えられますので、この間は、部
屋に入れないでください。

1．特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

お願い(NOTICE)

機器を廃棄するときの注意

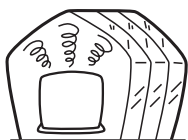
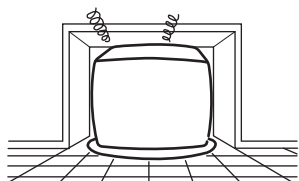
ストーブを廃棄処分するときは、定油面器の灯油を抜き取ってください。
灯油が入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。
必ずお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに依頼してください。

灯油の廃棄

灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

2.使用する場所

ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

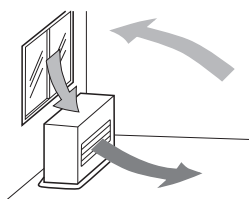
安全に使用するために

●マントルピースなどに据付ける場合は、標準据付け例にしたがってください。(27～28ページ参照)

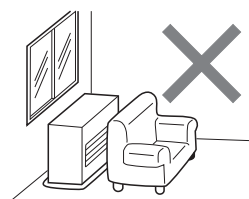
●標高が1500m以上の場所では使用しないでください。高地で使用される場合は調整が必要です。(空気の濃度が薄いため、燃焼に必要な空気が不足します。詳しくは工事説明書（高地または延長給排気で使用の場合）をご覧ください。)

●クリーニング店、美容院など化学薬品を使用する場所では使用しないでください。化学薬品などの影響により、異常燃焼や故障の原因になります。
●乾燥室、温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。
●水平でない場所、不安定な場所では使用しないでください。
●不安定な物をのせた棚などの下には使用しないでください。
●可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所には使用しないでください。
●階段、避難口などの付近で、避難に支障となる場所には使用しないでください。

効果的に使用するために

窓の下や壁面に設置

●外気に接する窓の下や壁面に置くと、冷気がストーブで暖められて対流しますので効果的です。

（ご注意）ストーブの前面に障害物を置かないでください。
●障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、本体の温度が上昇して危険です。

●ストーブの前面の空間を広くとれる場所を選んでください。

●熱に弱いカーペットや床の上で長時間使用すると、変色したり、そり返ることがあります。熱に強いマットなどを敷いてください。

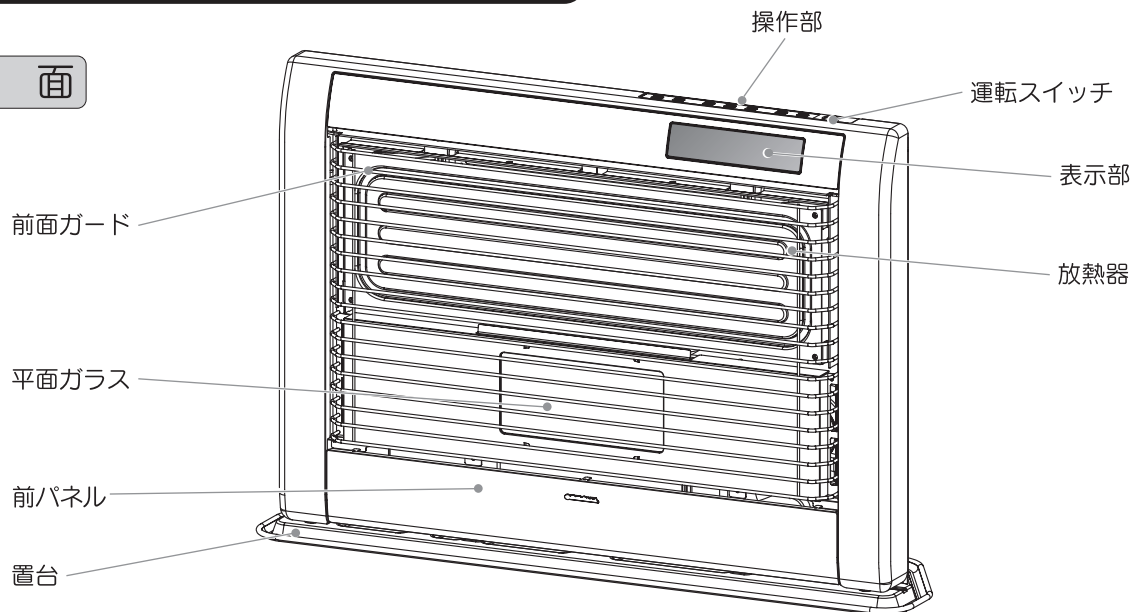
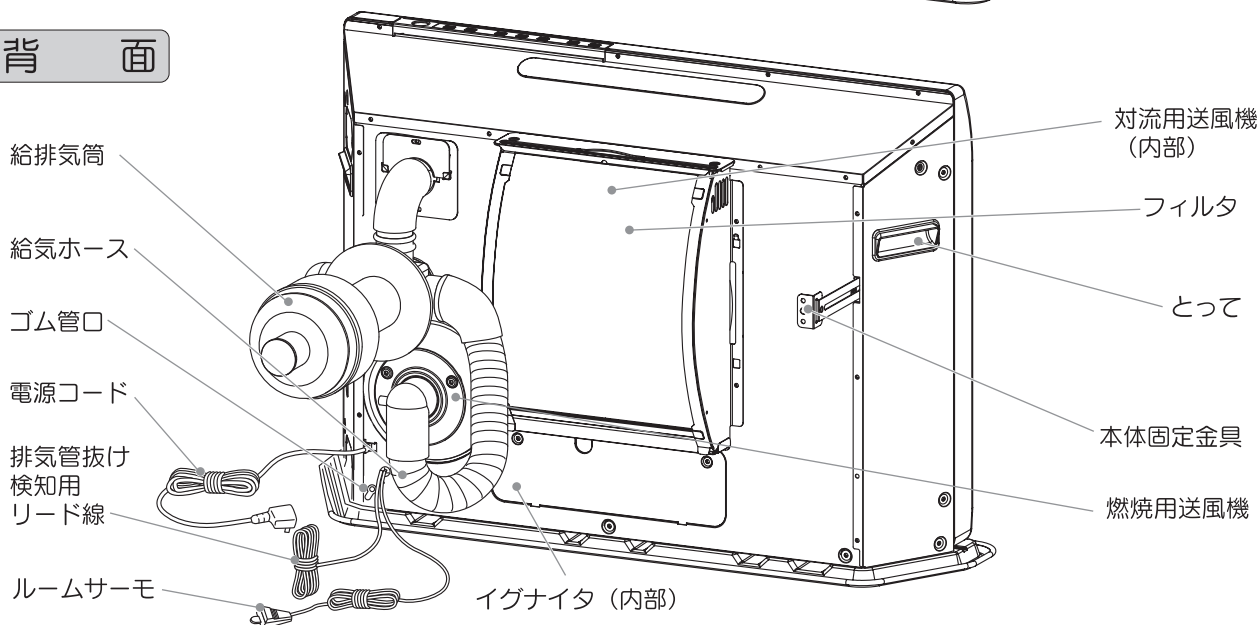
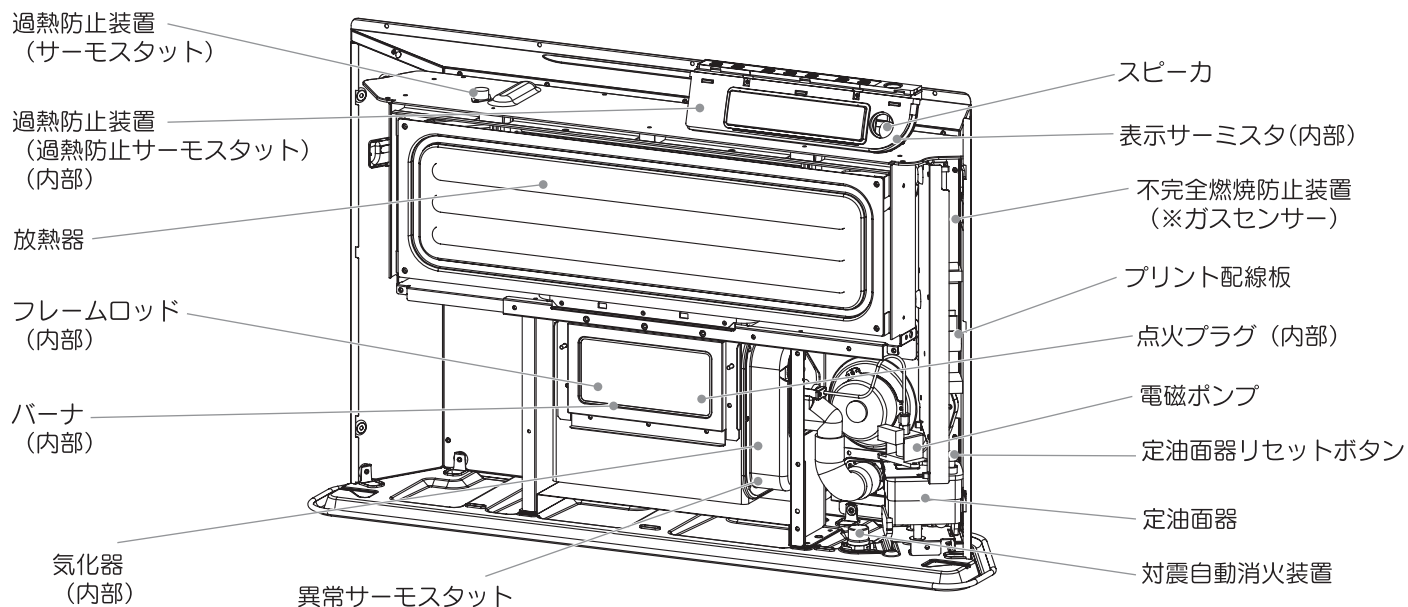
3.各部の名称

外観図

正面

操作部
運転スイッチ
表示部
前面ガード
放熱器
平面ガラス
前パネル
置台

背面

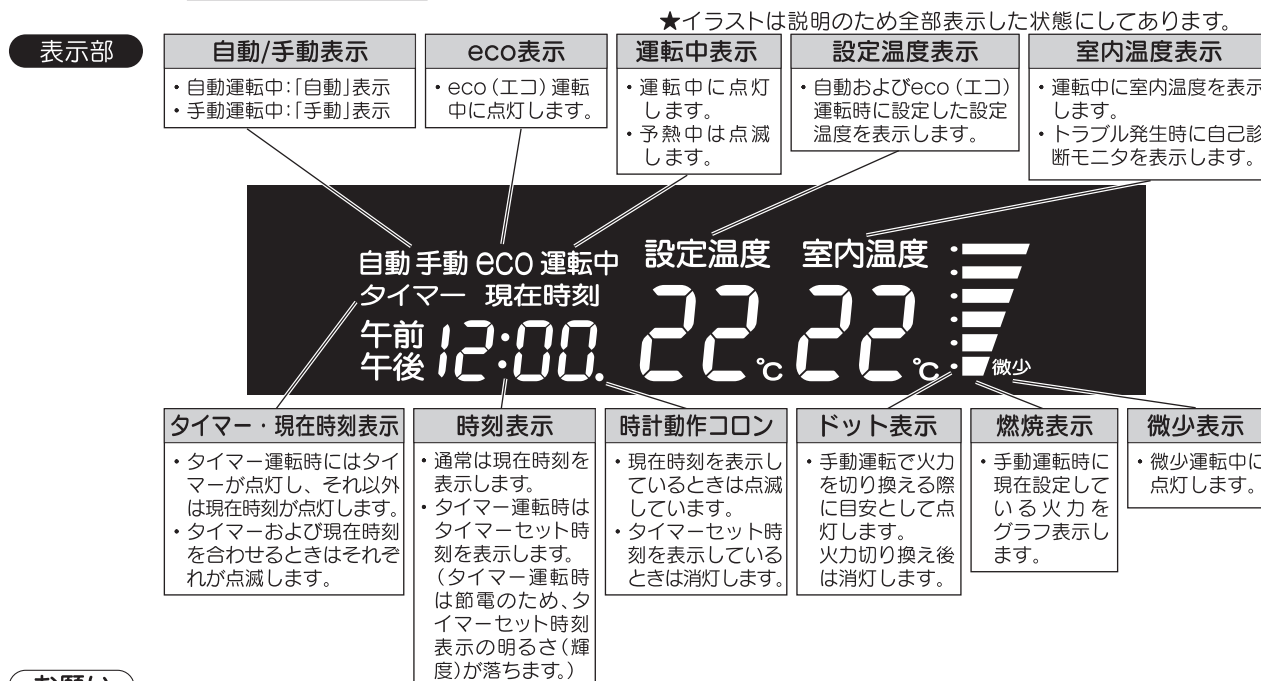
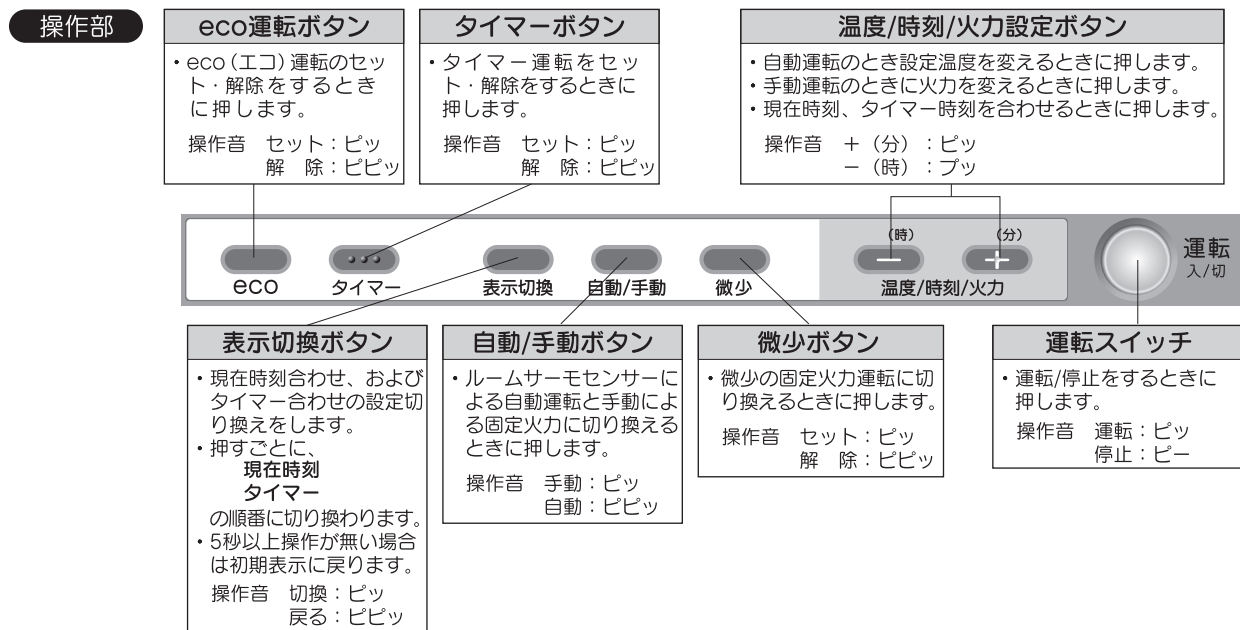
給排気筒
対流用送風機
（内部）
フィルタ
給気ホース
とって
ゴム管口
電源コード
本体固定金具
排気管抜け
検知用
リード線
燃焼用送風機
ルームサーモ
イグナイタ（内部）

構造図

※運転中は、ガスセンサーが発光・点滅するため、
隙間から光が見えることがあります。

操作部・表示部の名称と働き

■運転停止中は節電のため、表示はすべて消灯します。

●現在時刻を確認したい時は、操作ボタンのいずれかを押してください。1分間、現在時刻を表示します。
●タイマー運転中は節電のため、表示がすべて暗くなります。
●運転停止中も現在時刻を表示させることができます。
14ページの（運転停止中も時計を表示させたいとき）の項を参照してください。

■「音声お知らせ」の内容と消音方法

●通常の運転操作（「点火」・「消火」・「タイマーセット」）を行うとき、音声（“点火します”・“消火します”・“タイマーセットしました”）で操作状態をお知らせします。
●eco運転ボタンを押しながら温度設定ボタン（＋）を押すことにより、「音声お知らせ」を消音することが出来ます。

（お願い）

●はじめてお使いになる前に
輸送時の傷を防止するために、表示部・操作部には保護フィルムが貼ってあります。ご使用時に取り除いてください。コーナー部分にセロハンテープを貼り付けて、一緒にはがすとより簡単に取り除けます。（保護フィルムは、ストーブの設置工事の際にははがしてある場合があります。）

■表示部の明るさ調節

●温度設定ボタン（＋）を押しながら（－）を押すことにより、表示部の明るさを調節することができます。

燃　料

燃料は必ず灯油(JIS１号灯油)を使用してください。

⚠警告　ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

⚠注意　不良灯油(変質灯油、不純灯油)は、絶対に使用しないでください。点火・消火しにくくなったり、燃焼が悪くなってすすが出たり、製品の寿命を縮めます。

⚠注意　灯油は必ず火気・雨水・ごみ・高温および直射日光をさけた場所に保管してください。ガソリンなどと一緒に保管しないでください。誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。

灯油とガソリンの見分けかた

指先に燃料をつけ、息をふきかけます。
(火の気のない所で行ってください。)

灯油は ぬれたまま

ガソリンは すぐ乾く

不良灯油(変質灯油・不純灯油)とは…

昨シーズンより持ち越しの灯油

長期間日光にあたる所や温度の高い所に保管した灯油

容器のふたが開けてあったり、乳白色のポリ容器で保管した灯油

水・ごみや灯油以外の油がほんのわずかでも混入した灯油

- 極度に変質したものは、黄色味がかったり、すっぱいにおいがします。
- 必ず灯油用のポリタンクをお使いください。
- 灯油はシーズン中に使いきりましょう。

■変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用すると、ストーブの故障の原因になります。

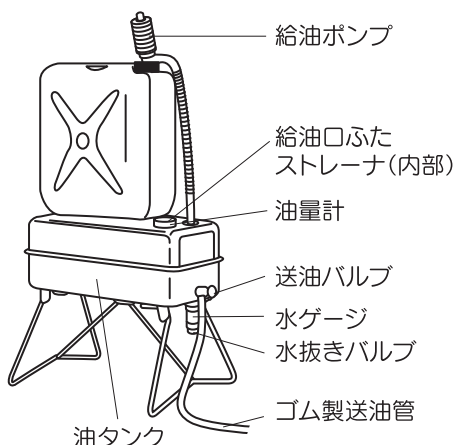
- 油の程度にもよりますが、燃焼不良をおこしたり、ストーブの損傷を早め、故障の原因になります。
- 水やごみが送油経路に流れこみ、油漏れや燃焼不良・着火不良の原因になります。

■変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用したときは…

- お買い求めの販売店または、お近くのお客様相談窓口にご連絡ください。

ご注意
- 変質灯油、不純灯油などの不良灯油が原因で修理を依頼されたときは、保証期間中でも保証の対象外となります。
- 変質灯油の処理でお困りの場合は、灯油をお買い求めの販売店にご相談ください。

給　油

■給油の際の手順と注意

⚠注意　**火災のおそれがありますので、給油は、必ず消火し、火の気のないところで行ってください。**

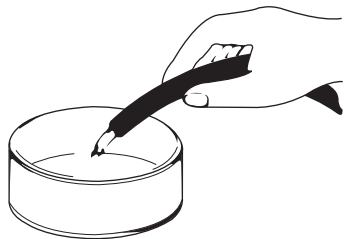
- 送油バルブを閉じて給油口ふたを外し市販の給油ポンプで給油してください。
  油量計の針が**「満」**をさしたら給油をやめてください。
  給油後は、給油口にあるストレーナを取り出して、水やごみがたまっていたら掃除してください。
- ストレーナを取り付けて、給油口ふたを必ずもとどおり締めてください。

- 給油の際は、水・ごみなどを入れないように注意してください。
  水・ごみなどは燃料不良や、ストーブの寿命低下などの原因になります。
- 給油口ふたは、確実に締めてください。

- こぼれた灯油はよく拭き取ってください。

■燃料切れの注意と空気抜きの方法

油タンクを空にしないように注意してください。

油タンクを一旦空にしますと、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。このような場合は次の順序で空気抜きをしてください。

1.送油バルブを閉め油タンクに給油します。
2.ストーブのゴム管口から、ゴム製送油管を外します。
3.送油バルブを開けゴム製送油管から灯油が連続して流れ出ることを確かめてからゴム製送油管をもとどおりにストーブに取り付けます。（灯油がこぼれないように容器を用意してください。）

運転開始前の準備と確認

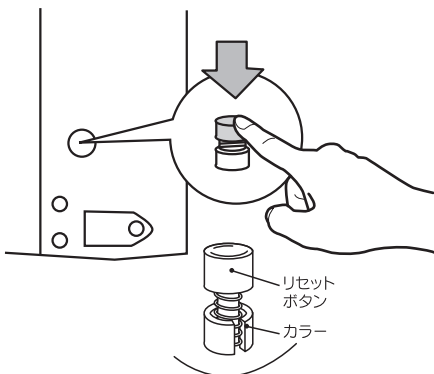
■前面ガード取付けの確認

●初めて使用するときは、同梱の前面ガードが必ず取り付けられている事を確認してください。

●ストーブ前面は高温となり、やけどのおそれがあります。必ず取り付けてください。
●取り付けられていない場合は（29ページ）前面ガードの取付方法を参照して必ず取り付けてください。

■安全装置のセット、取扱い上の注意

定油面器のセット

初めて使用するときやシーズン初めには、ストーブ右側面の丸穴の中に指を入れ、定油面器リセットボタン（赤色）を軽く押し下げてください。

●リセットボタンは据付け時やシーズン初めに操作します。定油面器に強い衝撃を与えたり異常があったとき以外は、特に操作する必要はありません。万一点火操作後灯油が出ずにモニタサイン E1 または E2 が表示されるような場合はリセットボタンを押してください。
（安全弁が外れ、灯油がスムーズに流れます。）
●リセットボタンは乱暴に扱ったり、5秒以上押したままの状態や何回も押し下げないでください。定油面器から灯油があふれたりすることがあります。
●カラーは絶対に外さないでください。

■送油経路の油漏れの確認

⚠注意 油タンク・ゴム製送油管・接合部・給油コックおよびストーブなどから灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。灯油が漏れていると火災のおそれがあります。

●油漏れのあるときは使用を中止し、油タンクの送油バルブを閉じてからお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご相談ください。

■電気配線の確認

⚠注意 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。

●電源コードが給排気筒などの高温部にふれるおそれのないことを確認してください。

ご注意 電源プラグ・コードの発熱・発火を防ぐために…
●電源は必ず適正配線された単相100Vのコンセントを使用してください。
●電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。

運転開始（点火）・運転停止（消火）

●操作部の自動/手動ボタンで、「自動」と「手動」による固定火力運転の設定ができます。
ご希望の運転方法でご使用ください。

点火順序

運転スイッチを押して「入」にしてください。

● “点火します”の音声と同時に「運転中」表示が点滅します。
●予熱が完了すると自動点火し、その後「運転中」表示が点灯に変わり温風が出ます。

●着火時、放電音と同時に着火音を発することがありますが、異常ではありません。
●点火操作から放電（着火）まで、室温により予熱時間が多少変化しますが、約２分かかります。
●着火後しばらくしてから温風が出始めます。

消火順序

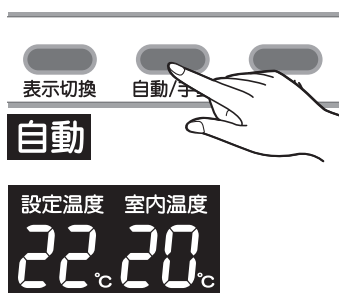
運転スイッチを押して「切」にしてください。

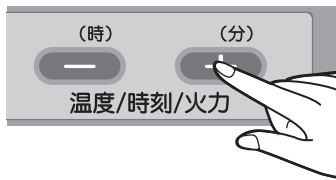
● “消火します” の音声と同時に「運転中」表示が消灯します。
●消火後は本体内部が冷却するまで送風を継続し、約10分後に燃焼用送風機・対流用送風機が停止します。送風が止まるまで電源プラグを抜かないでください。

⚠注意 ２日以上家をあけるなど長期間使用しない場合は、運転が完全に停止してから電源プラグをコンセントから抜いてください。
●外出のときは、必ず運転を停止(消火)してください。
●運転中は電源プラグを抜いての消火はしないでください。ストーブが過熱して故障の原因になります。
●運転停止後、燃焼室が冷却（表示が消灯）するまでは電源プラグを抜かないでください。ストーブが過熱して故障の原因になります。

室温の調節

■自動運転の場合

操作部の火力調節の自動/手動ボタンを押して「自動」表示にすると、ルームサーモによる自動運転となり、室温を10℃～30℃まで設定できます。表示部に設定室温が表示されるので次のように調節してください。

自動/手動ボタンを押して「自動」表示にします。

●表示部に設定温度と室内温度が表示されます。
●ルームサーモによる自動運転となり、設定温度に自動調節されます。
（ルームサーモは、できるだけ部屋の温度を代表できる位置に取り付けてください。）

室温の調節 を行ってください。

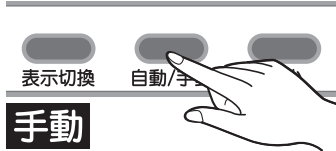
●温度設定ボタン「＋」を押すと1℃上がります。（上限30℃）
●温度設定ボタン「－」を押すと1℃下がります。（下限10℃）

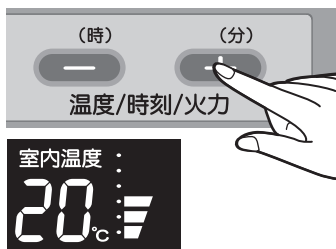
ご注意

●室温調節は、ストーブの位置や部屋の大きさなどで、必ずしも表示部の室内温度と室温とは一致しない場合があります。このような場合は、ルームサーモを工事説明書の「■ルームサーモの取り付け方」を参照して適切な位置に付け換えてください。
●一度設定温度を決めると、その設定を記憶していますので、変更しない限り、消火後再運転する場合も同一の設定温度になります。（30秒未満の停電や電源プラグを抜いた後でも設定温度を記憶しています）

●自動運転時に、微少火力でも室温が設定温度より上昇する場合、設定温度より3℃上昇すると自動的に消火するeco（エコ）運転をおすすめします。（11ページ eco（エコ）運転の項参照してください。）室温が、設定温度より3℃上昇すると消火し、お部屋のムダな暖めすぎをおさえます。

■「手動運転」の場合

手動運転時には固定火力運転による火力調節が可能です。火力は6段階に調節され、表示部にグラフ表示されます。火力設定ボタンで次のように希望の火力に調節してください。

自動/手動ボタンを押して「手動」表示にします。

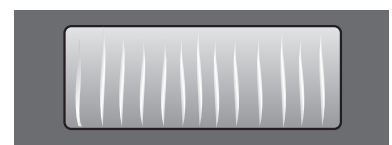
●表示部に室内温度、火力がグラフ表示されます。

火力の調節 を行ってください。

●火力設定ボタン「＋」を押すと1火力上がります。（上限 6）
●火力設定ボタン「－」を押すと1火力下がります。（下限 1）

■炎の状態

ストーブの据付けや給排気筒の設置条件で、炎は多少変化します。

●炎の状態は、青い炎の中に、瞬間的な黄色い炎が混じっても異常ではありません。

●細かい（霧状の）水滴やホコリを吸気した場合は全体的に淡いオレンジ色になることがありますが異常ではありません。

青い炎の中に黄色い炎が混じる

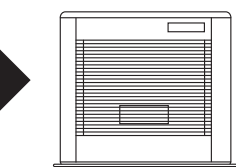
全体的にオレンジの炎（元は青色の炎）

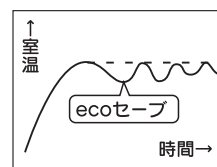
eco（エコ）運転

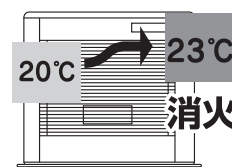
eco（エコ）運転は、自動運転時にeco運転ボタンを押すとご希望の設定温度に切り換わり、セーブ消火とecoセーブ運転でムダな暖めすぎをおさえ、経済的で快適な温度を保ちます。
また、自動運転時は最大火力を70～90%、手動運転時は最大火力を80～90%におさえてお部屋を温めすぎないように運転します。

自動運転時 ［設定温度20℃の場合］

eco運転ボタンを押すと設定温度が20℃に切り換わります

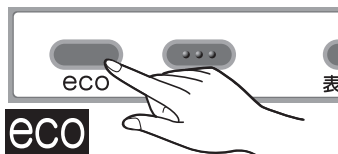
●eco（エコ）運転

最大火力を70～90%におさえて室内を暖房します。

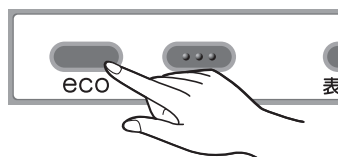
●ecoセーブ運転

ムダな暖めすぎをおさえ、快適な室温を保ちます。

●セーブ消火

室温が設定温度より約3℃上昇すると消火し、設定温度まで下がると再点火します。

※設定温度の初期設定は20℃です。設定温度は、温度設定ボタンで10～30℃に変更できます。
- ●室温が20℃未満で30分以上運転した場合は、最大火力を90%におさえて運転します。
- ●室温が20℃以上の場合、最大火力を80%におさえて運転します。
- ●室温が24℃以上で30分以上運転した場合、（設定温度を22℃以上に設定）最大火力を70%におさえて運転します。

手動運転時
- ●室温が20℃以上の場合､最大火力を90%におさえて運転します。
- ●室温が24℃以上で30分以上運転した場合､最大火力を80%におさえて運転します｡火力表示は最大のままです

■eco（エコ）運転方法

eco運転ボタンを押してください。
- ●「eco」表示が点灯し、eco（エコ）運転に入ります。
- ●手動運転の場合は最大火力時にeco（エコ）運転がはたらきます。

■eco（エコ）運転の解除

再度、eco運転ボタンを押してください。
- ●ecoランプが消灯し、eco（エコ）運転を解除します。
- ●eco（エコ）運転を解除するとeco（エコ）運転前の設定にもどります。
- ●eco（エコ）運転は一度設定すると記憶されますので消火しても解除されません。
- ●電源プラグを抜いたり、停電があった場合は自動的に解除されます。

クイック微少運転

●運転中に微少ボタンを入れると、ワンタッチで最小火力になり、部屋の暖めすぎを防止します。
微少ボタンを再度押すと、ワンタッチでいつも使用している設定に復帰します。

■クイック微少運転方法

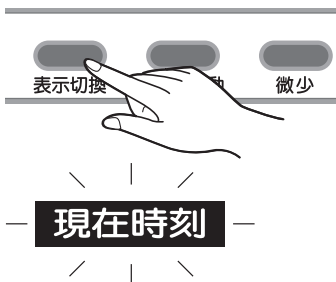
微少ボタンを押してください。

●微少表示が点灯し、火力が最小火力に設定されクイック微少運転に入ります。

■クイック微少運転の解除方法

再度、微少ボタンを押してください。

●微少表示が消灯し、クイック微少運転を解除します。
●クイック微少運転を解除するとクイック微少運転前の設定にもどります。

現在時刻の調節方法

●初めて使用するときや、電源プラグを抜いたときは、時刻表示部に ー：ーー. が表示されます。
●表示切換ボタンを押して「現在時刻」表示にします。
現在の設定時刻または ー：ーー. が表示され「現在時刻」表示が点滅します。
●時刻設定ボタン（時）（分）を押して現在時刻を合わせます。
1回押すと（時）は1時間、（分）は1分進みます。
押し続けによるボタンの受け付けも行います。

（時刻設定は「現在時刻」が点滅中設定できます。点滅が終了した場合は、再度表示切換ボタンを押して設定してください。）

●時刻合わせを行い表示切換ボタンを押したとき、または5秒間操作がなく「現在時刻」表示が消灯したときに時計動作を開始します。

例：午前6時15分に合わせる場合

●「時」ボタンを押して“午前6：00”にします。

現在時刻
午前 6:00.

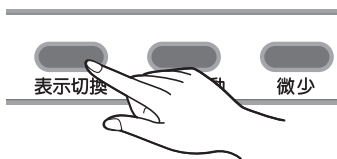
●「分」ボタンを押して“午前6：15”にします。

（時） （分）
温度/時刻/火力

現在時刻
午前 6:15.

●約30秒以内の停電であれば、再通電後も現在時刻を表示しますので時刻合わせの必要はありません。それ以上の停電で、 ー：ーー. が表示されたら時刻合わせを行ってください。

タイマーの使用方法

■タイマー時刻の合わせ方

タイマー

現在時刻とタイマー時刻が設定されていないと、タイマー運転はできません。

●表示切換ボタンを押して「タイマー」にします。
現在のタイマー時刻またはー：ーー. が表示され「タイマー」が点滅します。

●「時」・「分」ボタンを押してタイマーセット時刻を合わせます。
1回押すと「時」は1時間、「分」は5分進みます。
（タイマー時刻設定は「タイマー」が点滅中設定できます。点滅が終了した場合は、再度表示切換ボタンを押して設定してください。）

●表示切換ボタンを押してください。

例：午前6時30分に合わせる場合

●「時」ボタンを押して“午前6：00”にします。

●「分」ボタンを押して“午前6：30”にします。

■タイマー運転方法

室内温度
タイマー
午前 6:00. 22℃

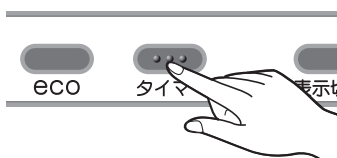
●運転スイッチを押して「入」にしてください。
（運転中の場合は運転スイッチを押す必要はありません。）

●運転するときのご希望の温度設定または、火力設定に合わせてください。

●タイマーボタンを押してください。
- “タイマーセットしました”の音声と同時にタイマー表示とタイマーセット時刻が表示され、タイマー運転に入ります。
（このとき本体内部冷却のため対流用送風機が10分間運転します。）

●合わせた時刻になると、運転を開始します。

●外出時など、留守中に燃焼を開始するようなタイマーセットは、絶対にしないでください。
●タイマー運転は、運転スイッチが「入」になっていないと運転が開始されません。
●タイマー運転中は節電のためタイマーセット時刻表示の明るさ（輝度）が落ちます。
●タイマーセット時刻になるまでは、時刻表示にタイマーセット時刻が表示され続けます。
●タイマー運転設定後に停電(30秒以上)があった場合や、対震自動消火装置が作動した時は、点火しません。

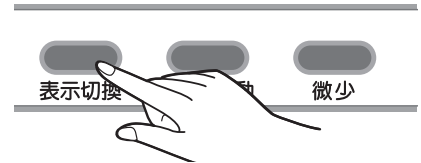
■タイマー運転の解除

●再度、タイマーボタンを押してください。
●タイマー表示が消灯し、現在の設定時刻が表示され（「運転中」点滅）、タイマー運転が解除され、自動的に運転を開始します。
●運転を停止する場合は、運転スイッチを「切」にしてください。

現在時刻・タイマーセット時刻の確認

現在時刻の確認

●表示切換ボタンを押して「現在時刻」に合わせます。

午後 10:30.

時計表示に現在時刻が表示されます。

タイマーセット時刻の確認

●表示切換ボタンを押して「タイマー」に合わせます。

午前 6:30.

時計表示にタイマーセット時刻が表示されます。

運転停止中も時計を表示させたいとき

運転停止中は節電のため、表示はすべて消灯しますが、下記の方法により現在時刻を表示させることができます。

- ●表示切換ボタンを押しながら、時刻設定ボタン（分）を押します。１分以上経っても時計表示が消灯しないことを確認してください。
- ●もとに戻したい場合は、同じように表示切換ボタンを押しながら時刻設定ボタン（分）を押してください。
- ●30秒以上の長い停電があった場合は、再度操作を行ってください。

自己診断モニタについて

ストーブにトラブルが発生するとトラブルの状態が表示部に記号表示（自己診断モニタ）されます。
「故障・異常の見分け方と処置方法」（21～22ページ）をご覧になり、記号表示に合った必要な処置をしてください。

〈自己診断モニタ〉

表示	原因	解除方法
E1	途中消火	①
E2	不着火	①
E3	対震作動	①
E4	過熱防止装置作動	①
E5	排気管抜け検知作動	①
E6	ルームサーモ断線	①
E7・E9	停電	①
E8	疑似火炎	①
EA	燃焼用送風機異常検出	①
EC	ルームサーモ短絡	①
Ed	対流用送風機異常検出	①
EF	空気サーミスタ温度異常	①
EH	表示サーミスタ温度異常	①
E0	基板温度異常	①

表示	原因	解除方法
P1	ポット予熱不足	②
P2	ポット温度低下	②
P3	ポット異常過熱	②
P5	基板故障	②
HE	不完全燃焼防止装置検知部異常	③
HC点滅	不完全燃焼防止装置作動	③
HH点滅	連続不完全燃焼通知機能作動	③
HH点灯	再点火防止機能作動	④

■解除方法
①運転スイッチを一旦「切」にし、再び「入」にしてください。
②お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼してください。
③直ちに部屋の換気を十分にして、運転スイッチを一旦「切」にし、再び「入」にしてください。
④解除できません。
　直ちに部屋の換気を十分にしてお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼してください。

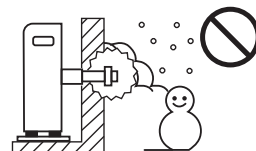
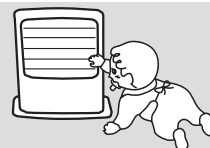
お願い

●お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに連絡していただく際は、表示している自己診断モニタもお知らせください。

使用上の注意

本書の「特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください」の他に、次の項目についても注意してください。

⚠警告 **●給排気筒トップ閉そく危険**

給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。
ふさがれているときは、除雪してください。
また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。
閉そくしていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

●ストーブの前パネル・前面ガードなどは高温です。やけどに注意してください。
特にお子さまをストーブに近づけないでください。
●前面ガードを外したまま使用しないでください。
誤って放熱器や平面ガラスなどの高温部にふれますとやけどをします。
●雷が発生したとき、雷（誘導雷）により一時的な過電圧がかかっても、過電圧防止装置が機器を保護するしくみになっていますが、大きな雷（直撃雷など）の場合は、電子部品を損傷する恐れがありますので、電源プラグをコンセントから抜いてください。
●給排気筒トップや排気管は高温です。やけどに注意してください。
●平面ガラスには水をかけたり、衝撃をあたえたりしないでください。ガラスが割れ危険です。
●ストーブ前面付近は、ふく射熱が強いので熱に弱いものを置いたり、敷いたりしないでください。
変色や変形したりすることがあります。
●シーズンオフのように長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。

6.安全装置

このストーブには次のような安全装置がついています。
すべての安全装置は、異常が取り除かれても再度点火操作をしなければ運転は停止したままです。

安全装置	原因・作動結果	処置方法
対震自動消火装置 （E3 表示）	●強い地震（震度約5以上）や衝撃を受けたとき ⇩ ・自己診断モニタ E3 表示 ・ストーブの運転を停止	●ストーブの周囲や給気ホース・排気管の外れ・油漏れなどの異常がないことを確認してから再点火してください。 （対震自動消火装置は作動後自動的にセットされます）
点火安全装置 ・ 燃焼制御装置 （フレームロッド） （E1 表示・E2 表示） （途中消火）（不着火）	●点火ミスをしたとき ●途中消火をしたとき ●炎が異常に小さいとき ⇩ ・自己診断モニタ E1 表示または E2 表示 ・ストーブの運転を停止	●油タンクの送油バルブが閉じられていないか確認してください。 ●ゴム製送油管に空気だまりがないか確認してください。 ●定油面器の安全装置が作動していないか確認してください。 ●お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼してください。
停電安全装置 （E7 表示・E9 表示） （30秒以上）（5秒以上 30秒未満）	●停電したとき ●電源プラグが抜けたとき ⇩ ・通電後自己診断モニタ E7 表示または E9 表示 ・ストーブの運転を停止	● E7 の場合、時計などのセットをしてから、点火操作をしてください。 ● E9 の場合、通電後点火操作をしてください。 ●電源プラグを確認してください。
過熱防止装置 （サーモスタット 過熱防止サーモスタット） （E4 表示）	●フィルタやストーブの前面がふさがったとき ●ストーブの前面に障害物などがあるとき ⇩ ・自己診断モニタ E4 表示 ・ストーブの運転を停止	●フィルタの掃除（20ページ参照）ストーブ周囲の障害物を取り除いてください。 ●お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼してください。
不完全燃焼防止装置 ●ガスセンサー （HC 点滅表示）	●排気が室内に漏れ不完全燃焼防止装置が働いたとき ⇩ ・自己診断モニタ HC 点滅表示 ・自動的に消火	●部屋の換気を十分にしてください。 ●排気管が外れていないか、他の燃焼機器の影響を受けていないか確認してください。
連続不完全燃焼通知機能 （HH 点滅表示）	●不完全燃焼防止装置が連続して4回作動し「連続不完全燃焼通知機能」が働いたとき ⇩ ・自己診断モニタ HH 点滅表示 ・自動的に消火	●部屋の換気を十分にして、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼してください。
再点火防止機能 （HH 点灯表示）	●さらに不完全燃焼防止装置（不完全燃焼通知機能）が連続して3回作動し再点火防止機能が働いたとき ⇩ ・自己診断モニタ HH 点灯表示 ・自動的に消火 ・再点火できません。	（同上）

7.その他の装置

装置の名称	原因・作動結果	処置方法
排気管抜け検知装置 （ES 表示）	●排気管の接続部が外れたとき ●排気管抜け検知用リード線が外れたり、断線したとき ⇩ ・自己診断モニタ ES 表示 ・ストーブの運転を停止	●給排気筒および排気管の接続部に、外れ・ゆるみがないか確認してください。 ●排気管抜け検知用リード線のゆるみまたは、外れ・切れがないか確認してください。
燃焼用送風機異常検出装置 （EA 表示）	●回転数が異常に低下したとき ⇩ ・自己診断モニタ EA 表示 ・ストーブの運転を停止	●お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼してください。
対流用送風機異常検出装置 （Ed 表示）	●回転数が異常に低下したとき ⇩ ・自己診断モニタ Ed 表示 ・ストーブの運転を停止	●お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼してください。
過電流防止装置 （表示部全消灯）	●内部配線のショートにより過電流が流れたとき ⇩ ・電流ヒューズが切れ、すべての運転を停止	●お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼してください。
異常温度検知装置 （表示サーミスタ） （EH 表示）	●フィルタやストーブの前面がふさがったとき ●ストーブの前面に障害物などがあるとき ⇩ ・自己診断モニタ EH 表示 ・ストーブの運転を停止	●フィルタの掃除（20ページ参照）ストーブ周囲の障害物を取り除いてください。 ●お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼してください。

点検、手入れのときの注意

点検・手入れは消火後、ストーブが十分冷えてから、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

⚠注意
- ●故障・破損したら、使用しないでください。不完全な修理は危険です。
- ●定期的（2年に1回程度）に点検・整備を受けてください。点検を受けずに長期間使用し続けると、故障や事故の原因になり危険です。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■周囲の可燃物（使用ごと）

⚠注意 **ストーブの周囲は、常に整理・掃除し、燃えやすいものを置かないでください。**

■ほこり（使用ごと）

●ストーブにほこりが付いた状態で運転をしないでください。
●ストーブ外観のほこりや汚れは、乾いたやわらかい布などできれいにふきとってください。
シンナー・アルコール・ベンジンなどは使用しないでください。

■油漏れ・油のたまり・油のにじみ（使用ごと）

●置台・油タンクに油漏れ・油のたまりや油のにじみがないか、点検してください。
また、給油の際にこぼれた灯油はよくふきとってください。

●油漏れがある場合は、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼してください。

■ゴム製送油管の点検・交換の目安（シーズンの初め）

⚠注意 **油タンクやゴム製送油管・接合部・給油コックおよびストーブなどからの灯油漏れがないことを確認の上ご使用ください。**

ご注意 **ゴム製送油管は、屋外で使用しないでください。
屋外での使用は禁止されています。
ゴム製送油管は、経年変化しますので手で少し曲げひび割れがないか点検し、ひび割れがあるときは交換してください。交換の目安は、３年に1度です。
交換は、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに依頼してください。**

■油タンク（シーズンの初め、適時）

●油タンク内に水やごみがたまっていないか点検してください。
油タンク内の水抜きおよび掃除は、油タンク付属の取扱説明書に従って行ってください。

■給気ホース・排気管の点検（シーズン初め・適時）

●給気ホース・排気管の接続部が外れていないか点検してください。
●給気ホースが排気管にあたっていないか点検してください。

■結露水の処理（適時）

お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに依頼してください。

●給排気筒トップより結露水がたれることがありますが異常ではありません。
●排気管に結露水がたまった場合は、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに点検を依頼してください。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■給排気筒接続部のゆるみおよびトップ周囲の点検（使用ごと）

⚠警告 給排気筒（管·ホース）が外れたまま使用しないでください。外れていると運転中に排ガスが漏れて、危険です。

⚠警告 積雪が多いときには、給排気筒トップの周りが雪でふさがれていないことを確認してください。

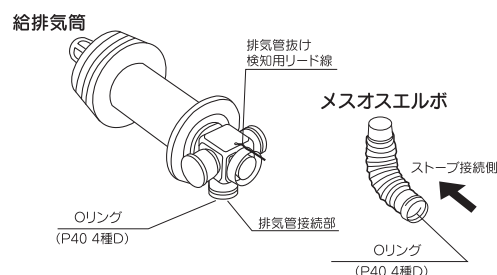
- 除雪は、給排気筒トップの周囲を常に30cm以上あけて、風がよどまないようにしてください。
- 積雪や屋根から落ちた雪により、給排気筒トップがふさがれると燃焼不良の原因になります。閉そくすると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。

●給排気筒およびトップの周囲に障害物が置かれていないか、ときどき点検してください。
障害物が置いてある場合は、移動してください。

■給排気筒接続部のゆるみおよびトップの周囲の点検（1シーズン1～2回）

●給排気筒がつまると、不完全燃焼をおこします。
シーズン初めには必ず点検し、くもが巣をつくったり異物が入ったりしているときは、必ず掃除してください。

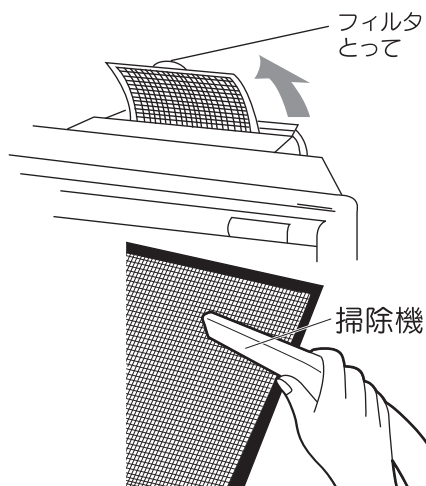
●給排気筒および、排気管の接続部が外れたり、排気管抜け検知リード線が外れたり、断線していないか点検してください。

●給排気筒を一度取り外して、再び取り付けるときは、排気管の接続部内部にはめこんであるOリングが破損していないか確かめてください。
破損していた場合は、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに交換を依頼してください。

■定油面器のストレーナの掃除と水抜き（適時）

お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに依頼してください。

●定油面器には、ごみを除くためのストレーナがついています。
水やごみがたまると灯油の流れを妨げて、十分な火力が出なくなる場合や灯油が漏れるおそれがあります。
シーズンに1～2回（シーズン初めなど）には、お買い求めの販売店またはお近くのコロナサービスセンターに掃除・点検を依頼してください。

■対流用送風機のフィルタの掃除（週に1回以上）

●フィルタがごみやほこりで目づまりすると送風力が弱くなり排気温度上昇やストーブの表面温度が上昇する原因になります。〔過熱防止装置または表示サーミスタの働きで運転が停止する場合があります。〕
運転を停止してから、次のようにストーブ裏面のフィルタの掃除を行ってください。

1.左図のようにフィルタのとってをつまんで矢印のようにフィルタを上に引き出し、ストーブ背面から取り外してください。
2.フィルタに付着したほこりを掃除機で吸い取ってください。
3.掃除が終わりましたら、もとどおりに取り付けてください。

⚠注意 **フィルタを外したまま運転しないでください。**
対流用送風機のフィルタを外した状態で運転すると、カーテンなどを巻きこんで火災になるおそれがあります。また手などをふれるとけがをするおそれがあります。

■地震などの災害が発生したときの点検について

●地震などの災害が発生し、ストーブに振動や衝撃が加わったときは、運転前に必ず次の点検を行ってください。
- **給排気筒まわりの外れ、漏れの確認**
- **機器の損傷点検**
- **灯油配管からの漏れ確認**

●点検で異常が見つかった場合は、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼してください。

9.故障・異常の見分け方と処置方法

■次のような現象は故障ではありません。

●修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

現象		説明
点火時・消火時	初めて使用するときやシーズンの初めに煙やにおいがでる。	耐熱塗料やほこりが焼けるためです。 しばらく窓をあけて換気をしてください。
	すぐに点火しない。	予熱点火方式のため予熱時間が約2分程度必要です。 （予熱時間は室温により多少変化します。）
	燃焼開始時や消火後に「ピチピチ」や「カンカン」という音がする。	本体内部が熱により膨張、収縮するためです。
	運転開始時、「カッチカッチ」という音がする	製品の機能上（リレー音）であり異常ではありません。

■使用中に異常があったら、次表により原因を調べて処置をしてください。

●原因のわからないときや、処置のむずかしいときは、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご連絡ください。　　※表示部に自己診断モニタが表示されます。

原因 ＼ 現象	E1（途中消火）	E2（点火しない）	E3（対震作動）	E4（過熱防止装置作動）	E5（排気管抜け検知作動）	E7（停電）E9（停電）	E8（疑似火炎）	E0（基板温度異常）	EH（表示サーミスタ温度異常）	HE（不完全燃焼防止装置検知部異常）	HC 点滅（不完全燃焼防止装置作動）	HH 点滅（連続不完全燃焼通知機能作動）	HH 点灯（再点火防止機能作動）
電源プラグをコンセントに差し込んでいない													
強い地震があった。または、ストーブに衝撃を与えた			●										
送油バルブが閉まっている	●	●											
定油面器の安全装置が作動している	●	●											
ゴム製送油管に空気だまりがある	●	●											
ゴム製送油管が折れていて、灯油が流れにくい。	●	●											
定油面器に水、ごみが入っている	●	●											
給排気筒の設置が基準通りでない。排気管が長すぎる													
対流用送風機のフィルタにほこりがたまった				●				●	●				
給排気筒の工事が不適当なため排気ガスを吸い込んでいる	●												
ルームサーモ取付け位置が悪い													
油漏れがある													
給排気筒接続部が外れている。 排気管抜け検知用リード線端子接続部がゆるんでいる					●								
フレームロッドにすすが多量に付着した	●						●						
長時間停電があった（30秒以上－E7表示）						●							
停電があった（5秒以上30秒未満－E9表示）						●							
給排気筒トップ先端がおおわれている	●	●											
電源電圧（AC100V）が低くなっている													
手動運転になっている													
標高調整・延長調整がされていない													
不完全燃焼防止装置が故障している										●			
室内に排気ガスが漏れた											●	●	●

現象		説明
燃焼時・その他	青炎の中に黄色い炎（赤火）が混じる 炎の一部が揺ぐ	異常ではありません。
	給排気筒の先端から連続的に白煙が出る。	外気温が低くなると、排気ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるためで、異常燃焼による白煙ではありません。
	灯油ぎれの際に一瞬炎が大きくなって消火する。	異常ではありません。
	停電したときの再通電直後（E7または E9表示）点火操作をすると、EH E4表示が出ることがある。	停電によりストーブの温度が一時的に上昇するためで、異常ではありません。４～５分冷却した後に、点火操作してください。
	放熱器の中央部が「色あいが変わって見える」、「白っぽくなって見える」場合がある。	使用している特殊遠赤外線塗料は、部屋の明るさや照明等の光に反射して色あいが変化します。 異常ではありません。安心してご使用ください。
	「カチカチ」音がする。	電磁ポンプの運転音で異常ではありません。

●次のような現象のときは使用を中止し、油タンクの送油バルブを閉じてお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご連絡ください。

現象	説明
置台に灯油が漏れている。	ゴム製送油管の締付バンドが締まっていない。

P1（ポット予熱不足）	P2（ポット温度低下）	音をたてて燃える	灯油のにおいがする	爆発的な燃焼をする	電源が入らない	室温が低いのに火が大きくならない	炎が大きくならない	黒煙を出して燃える	処置方法
					●				コンセントに確実に差し込む
									ストーブの周囲や給気ホース・排気管の外れ・油漏れなどの異常がないことを確認してから点火操作をする
									送油バルブを開く
									定油面器リセットボタンを押す
							●		燃料切れの注意と空気抜きの方法（8ページ）を参照して空気抜きをする
							●		ゴム製送油管の折れを直す
							●		お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼する
								●	お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼する
									フィルタのほこりを掃除機などで掃除する
		●	●	●				●	お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼する
						●			適正な位置に取り付け直す
			●						お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼する
									お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼する
									お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼する
									設定室温、時刻などをセットしてから点火操作をする
									再度点火操作をする
		●						●	おおっているものを取り除く
●	●								⚠注意「電気配線の確認」（8ページ）の内容を点検する
						●			自動運転に切り換える
		●							工事説明書に従い調整を行ってください
									お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに修理を依頼する
									直ちに部屋の換気をする。 「不完全燃焼防止装置」（16ページ）の内容を点検する

10.定期点検

長期間ご使用になりますと、ストーブの点検が必要です。
２シーズンに１回程度、シーズン終了後などに、点検を実施してください。点検のご相談は、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターもしくは修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会（TEL03－3499－2928）で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる店にご相談ください。

愛情点検

長年ご使用の密閉式石油ストーブの点検をぜひ！	
こんな症状はありませんか	●油漏れがする。 ●強い臭いがする。 ●運転中に異常な音がする。 ●その他の異常や故障がある。

▶

ご使用中止

故障や事故の防止のため必ずお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご連絡ください。
点検・修理についてのご費用など詳しいことはお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご相談ください。

11.部品交換のしかた

■部品交換のときの注意

（ご注意）不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要の場合には、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターもしくは修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる販売店にご相談ください。

部品交換は コロナ純正部品 とご指定ください。

●コロナ純正でない部品を使用の場合には、本体の機能が損なわれたり、事故や故障の原因となります。また、保証期間内であっても本体の保証が受けられません。

消耗・劣化しやすい部品

項　目	内　容
使用期間により交換が必要な部品	パッキン類およびOリング（メンテナンス時分解した場合は必ず交換が必要です。）・点火プラグ・フレームロッド・排気管接続用Oリング（P40 4種D）
環境により劣化しやすい部品	給排気筒系部品・各種制御基板・燃焼用送風機・対流用送風機 ガスセンサー・ゴム製送油管
変質・不純灯油の使用により劣化しやすい部品	フレームロッド・気化器・電磁ポンプ・定油面器

12.保管（長期間使用しない場合）

シーズン終了時などの長期間使用しないときは、日常の点検・手入れの項（18～20ページ）を参照し、次の要領で保管してください。

１.電源プラグをコンセントから抜いてください。

⚠注意 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

２.油タンクの送油バルブを閉じてください。

３.フィルタの掃除をしてください。（20ページ参照）

４.本体のごみやほこりを取ってください。

- 掃除機などでごみやほこりを取り除いてください。

５.本体をしめらせた布で汚れを落としてから、からぶきしてください。

６.ストーブは据付けたまま保管してください。

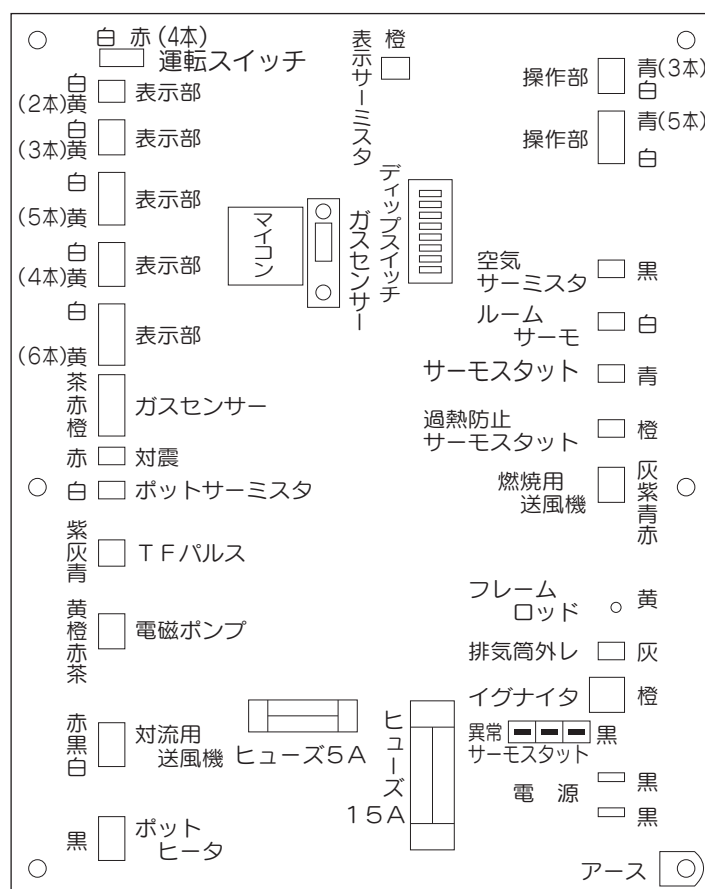
- どうしても取り外して保管されるときは、ポリ袋をかぶせ、乾燥した場所に横倒しにしないようおしまいください。
- 次シーズンに据付けるときには、必ずお買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターに依頼してください。

仕　様

型式の呼び		FF-AG6812H（基本型式 FF-AG6810H）	
種類		気化式・強制給排気形・強制対流形	
点火方式		電気点火式	
使用燃料		灯油（JIS１号灯油）	
燃焼状態		最　大	最　小
燃料消費量		7.82kW（0.760 L/h）	2.26kW（0.220 L/h）
発熱量		28,150 kJ/h	8,150 kJ/h
熱効率		87.0 %	87.5 %
暖房出力		6.78 kW	1.98 kW
標準適室	温暖地	木　造 29.5m²（18畳）まで コンクリート 39.5m²（24畳）まで	
	寒冷地	木　造 29.5m²（18畳）まで コンクリート 46.0m²（28畳）まで	
外形寸法		高さ548㎜　幅802㎜　奥行284㎜（置台含む）	
質量		25kg	
電源電圧及び周波数		100V　50/60Hz	
定格消費電力		最大消費電力（点火時）860/860W 燃焼時消費電力 34/39W	
待機時消費電力		1.0W	
給排気筒の型式の呼び		QU40-3	
給排気筒の呼び径		D40	
給排気筒の壁貫通部の孔径		φ75㎜	
排気温度		260℃以下	
電流ヒューズ		5A・15A	
安全装置		対震自動消火装置・点火安全装置・燃焼制御装置・不完全燃焼防止装置・停電安全装置・過熱防止装置	
その他の装置		過電流防止装置・排気管抜け検知装置・異常温度検知装置 燃焼用送風機異常検出装置・対流用送風機異常検出装置	
付属品		給排気筒セット１組・給気ホース１個・前面ガード1個・本体固定金具B1個 ゴム製送油管締付バンド2個・スリーブ1個・取扱説明書・工事説明書・所有者票	

備考）標準適室は、一般社団法人・日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。

プリント配線板　端子配置図

白 赤（4本） 運転スイッチ
白（2本）黄 表示部
白（3本）黄 表示部
白（5本）黄 表示部
白（4本）黄 表示部
白（6本）黄 表示部
茶赤橙 ガスセンサー
赤 対震
白 ポットサーミスタ
紫灰青 ＴＦパルス
黄橙赤茶 電磁ポンプ
赤黒白 対流用送風機
黒 ポットヒータ
マイコン
表示サーミスタ 橙
ディップスイッチ
ガスセンサー
ヒューズ５Ａ
ヒューズ１５Ａ
操作部 青（3本） 白
操作部 青（5本） 白
空気サーミスタ 黒
ルームサーモ 白
サーモスタット 青
過熱防止サーモスタット 橙
燃焼用送風機 灰紫青赤
フレームロッド 黄
排気筒外レ 灰
イグナイタ 橙
異常サーモスタット 黒
電　源 黒 黒
アース

14.アフターサービス

■保証について

●このコロナ密閉式石油ストーブには保証書がついています。（裏表紙に印刷されています。）
保証書は、必ず「お買いあげ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。
●保証期間は、お買いあげ日から１年間（本体）です。（燃焼部分は３年間）
●次のような原因による故障および、事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。
- 変質灯油や不純灯油などの不良灯油、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。
- 誤った使用方法による故障や事故。

■修理を依頼されるとき

●「故障・異常の見分け方と処置方法」（21・22ページ）の項に従ってお調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご連絡ください。
●ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
①品名　②型式の呼び　③お買いあげ日　④故障状況（できるだけ具体的に）　⑤ご住所・ご氏名・お電話番号
・品名、型式の呼びは取扱説明書（保証書）をごらんください。
●修理に際しては、保証書をご提示ください。保証期間中であれば保証書の規定に従って無料修理させていただきます。

14.アフターサービス

●修理に際しては、保証書をご提示ください。保証期間中であれば保証書の規定に従って無料修理させていただきます。
●ご不明な点や修理に関するご相談は、お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにお問い合わせください。

■保証期間が過ぎているときは
●お買い求めの販売店または、お近くのコロナサービスセンターにご相談ください。修理によって使用できる製品についてはお客様のご要望により有料修理いたします。

■補修用性能部品の保有期間
●石油ストーブの補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の保有期間は製造打ち切り後7年です。

15.据付け・移設

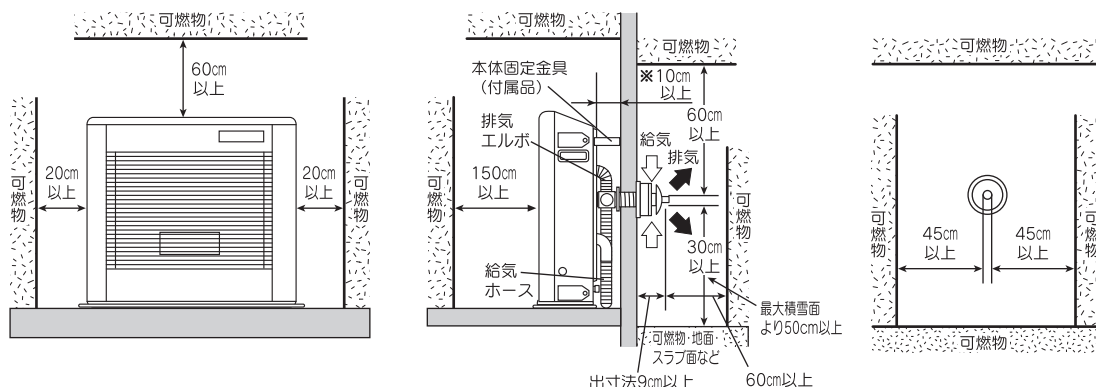
据付け・移設工事は販売店に依頼する

据付けや移設工事は販売店または据付業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

据付け場所の選定及び標準据付け例

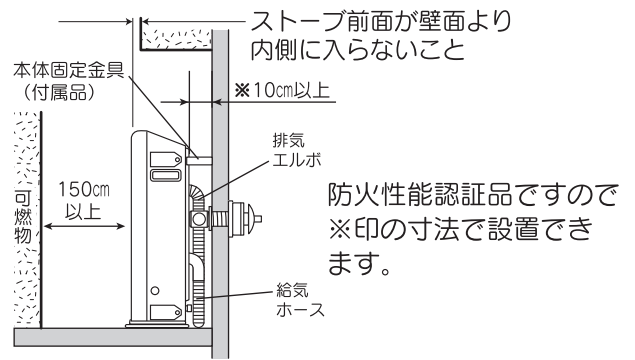
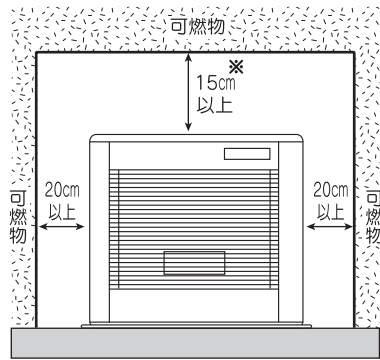
据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。
工事説明書の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みになり、販売店または据付業者とよくご相談してください。
また、「標準据付け例」については、下図を参照してください。

標準据付け例

ストーブの据付けは下図を満足させる位置に取り付けてください。

標準据付け例

●側方障害物は、両側にあってもよいが給排気筒と障害物、可燃物との距離は45㎝以上とってください。
●前方に塀や建物がある場合は給排気筒先端と前方障害物との距離は60㎝以上離し、かつ上方および両側方に気流を阻止する障害物がないようにしてください。
●給排気筒下面は地面から30㎝以上離すようにしてください。なお積雪地域では、給排気筒先端が雪でふさがれるおそれのない高さを確保してください。
●雪の多い地方では、最高積雪面より50cm以上離れる場所に、給排気筒を取り付けてください。

〔マントルピースなどに設置する場合のストーブ周囲寸法〕

防火性能認証品ですので※印の寸法で設置できます。

ご注意

●テレビやラジオから1m以上離してください。
●熱に弱いカーペットや床の上で長時間使用すると、変色したり、そり返ることがあります。
●木造の建物で壁にメタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りをしてある場所に給排気筒を通すときは、それらの金属部に接しないように電気的絶縁をしてください。
●壁に穴をあける場合、壁の内部にある電気配線・ガス・水道の配管にあたらない場所を選んでください。
●点検・手入れのためストーブ左右の離隔距離は、20㎝以上にしてください。
●可燃物までの離隔距離を示していますが、保守点検や性能維持のため、不燃物などの場合も離隔距離をとってください。

給排気筒を延長する場合の注意

●給排気筒を延長する場合は、３ｍ３曲がり以下で取り付けられる場所を選定してください。
●標高1300m～1500mで使用する場合は、1.5m3曲がり以下で取り付けられる場所を選定してください。

積雪地区における注意

●給排気筒トップが雪でふさがれない場所に設置してください。落雪により給排気筒トップがふさがれたり破損するおそれのある場所には設置しないでください。
また、風がよどむような場所では、排ガスを再度吸い込んで異常燃焼を起こすことがあります。

据付け後の確認

据付けが終わりましたら、もう一度、工事説明書の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みになり、工事説明書に記載されているとおり据付けられているかどうかを確認してください。

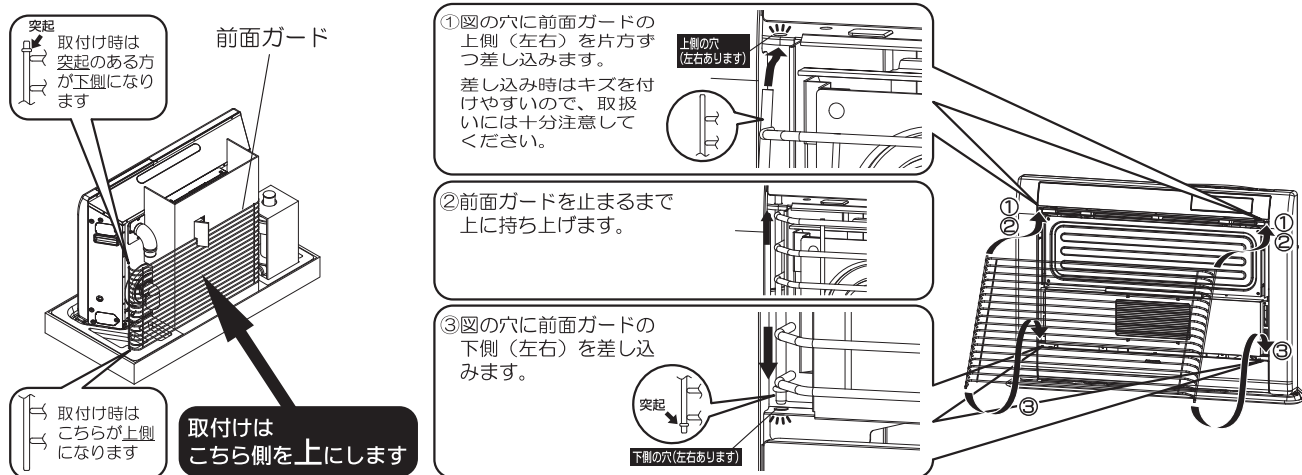
■前面ガードの取付方法

●ストーブ設置の際は必ず同梱の前面ガードを正しく取付けてください。

●燃焼中や消火直後はストーブ前面が高温となり、やけどのおそれがあります。前面ガードは必ず取付けてください。

〈取付け方法〉

●取付けの際はストーブや前面ガードにキズ等を付けないよう、取扱いには十分注意してください。

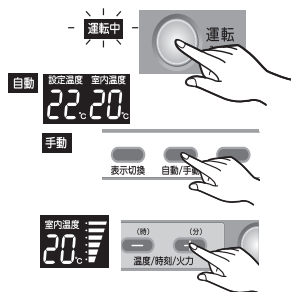
■前面ガードはストーブの背面に同梱されています。下図のように取付けてください。

試 運 転

試運転は販売店または据付業者とご一緒に必ず行ってください。

■運転準備

⚠注意 **電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。**

●油タンクに給油し、送油経路の空気抜きをしてください。(8ページの燃料切れの注意と空気抜きの方法を参照してください。)
●送油経路やストーブより油漏れがないか確認してください。
●前面ガードが取付けてあることを確認してください。
●定油面器をセットしてください。(8ページの安全装置のセット、取扱上の注意を参照してください。)

■運転

①運転スイッチを押して「入」にする

●“点火します”の音声と同時に「運転中」表示が点滅します。
●「自動」表示になります。
●予熱が完了すると自動点火し、その後「運転中」表示が点灯に変わり温風がでます。

②異常がなければ自動/手動ボタンで、自動運転から「手動」にします。表示部に火力がグラフ表示されます。火力調節を火力設定ボタン「−」「＋」で「1→2→3→4→5→6」に設定して火力を確認してください。(各火力で1分以上確認してください。)

●炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎がまじっても異常ではありません。

③炎の確認が終了したら、自動/手動ボタンで自動運転に戻してください。

■消火の手順

①運転スイッチを押して「切」にする

●“消火します”の音声と同時に表示部は時刻表示のみになります。
●消火後は本体内部が冷却するまで送風を継続し、約10分後に燃焼用送風機・対流用送風機が停止し全ての表示が消灯します。

お願い

●長期間の保管後、再び設置する場合も「試運転」の手順にしたがい、試運転を行ってください。

⚠注意 **初めてお使いになるときの注意**

初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。
しばらくの間、窓をあけて部屋の換気を行ってください。また、小鳥や小動物などに影響する場合が考えられますので、この間は部屋に入れないでください。

●お部屋の窓（給排気筒トップ取付け場所より離れた所）を少し開け、半日から1日程度「大火力」運転をしてください。

お客様ご相談窓口

お客様ご相談窓口一覧表

修理サービスや製品についてのご相談は機種名をご確認の上、お買いあげの販売店または下記のご相談窓口にご依頼ください。

ご転居やご贈答品などでお困りの場合は、下記のお近くの窓口にご相談ください。
名称、所在地、電話番号は、変更する場合がありますのでご了承ください。

●アフターサービスのお問い合わせは下記へどうぞ

コロナサービスセンター
0120-919-302
（修理受付専用ダイヤル）
携帯電話・PHS等からは最寄のサービスセンターへ直接おかけください。
FAX 0120-919-322
受付時間　午前9時～午後7時(日曜、祝祭日は除く)

地区	名称	所在地	郵便番号	TEL	FAX
北海道地区	札幌支店	札幌市白石区平和通16丁目南1-19	〒003-0028	TEL(011)864—0440(代表)	FAX(011)863—3154
	旭川営業所	旭川市東旭川南1条2丁目2-5	〒078-8261	TEL(0166)37—2330(代表)	FAX(0166)37—2338
	北見営業所	北見市卸町1丁目1-3	〒090-0056	TEL(0157)36—9009(代表)	FAX(0157)36—5959
	釧路営業所	釧路市花園町4-17	〒085-0038	TEL(0154)24—4191(代表)	FAX(0154)24—0451
	帯広営業所	帯広市西18条北1丁目17-1	〒080-0048	TEL(0155)35—7518(代表)	FAX(0155)35—7510
	函館営業所	函館市西桔梗町21-2	〒041-0824	TEL(0138)48—6070(代表)	FAX(0138)48—6080
	北海道地区 サービスセンター	札幌市白石区米里3条2丁目6-25	〒003-0873	TEL(011)879—2121(代表)	FAX(011)871—2400
北東北地区	青森支店	青森市古館1丁目12-38	〒030-0946	TEL(017)742—8255(代表)	FAX(017)742—8275
	青森地区 サービスセンター	青森市古館1丁目12-38	〒030-0946	TEL(017)743—2971(代表)	FAX(017)743—1118
	八戸営業所	八戸市売市4丁目4-7	〒031-0073	TEL(0178)24—5289(代表)	FAX(0178)45—4290
	八戸地区 サービスセンター	八戸市売市4丁目4-7	〒031-0073	TEL(0178)47—6609(代表)	FAX(0178)71—1344
	弘前営業所	弘前市田園1-2-1	〒036-8086	TEL(0172)28—3910(代表)	FAX(0172)28—0191
	弘前地区 サービスセンター	弘前市田園1-2-1	〒036-8086	TEL(0172)26—4770(代表)	FAX(0172)29—1133
	盛岡営業所	盛岡市門2-1-42	〒020-0823	TEL(019)622—4791(代表)	FAX(019)622—5244
	水沢営業所	奥州市水沢区水沢工業団地4丁目79	〒023-0002	TEL(0197)22—4155(代表)	FAX(0197)22—4452
	盛岡地区 サービスセンター	盛岡市門2-1-42	〒020-0823	TEL(019)604—0281(代表)	FAX(019)604—0283
	秋田営業所	秋田市泉中央4丁目4-18	〒010-0917	TEL(018)864—5671(代表)	FAX(018)864—8468
	秋田地区 サービスセンター	秋田市外旭川三千刈109-1	〒010-0802	TEL(018)864—5219(代表)	FAX(018)864—5760
南東北地区	仙台支店	仙台市宮城野区日ノ出町1-7-32	〒983-0035	TEL(022)235—3181(代表)	FAX(022)236—8810
	山形営業所	山形市東青田3-6-28	〒990-2423	TEL(023)642—3255(代表)	FAX(023)642—3254
	庄内営業所	酒田市錦町1-183-1	〒998-0103	TEL(0234)31—0571(代表)	FAX(0234)31—0581
	郡山営業所	郡山市亀田1-51-9	〒963-8033	TEL(024)938—2240(代表)	FAX(024)938—3021
	南東北地区 サービスセンター	仙台市宮城野区日ノ出町1-7-31	〒983-0035	TEL(022)783—1791(代表)	FAX(022)783—1792
関東地区	北関東支店	さいたま市北区宮原町1-674-2	〒331-0812	TEL(048)651—1722(代表)	FAX(048)651—6370
	水戸営業所	水戸市笠原町653-2	〒310-0852	TEL(029)241—2172(代表)	FAX(029)241—4268
	つくば営業所	つくば市谷田部6788-19	〒305-0861	TEL(029)839—5325(代表)	FAX(029)836—1913
	宇都宮営業所	宇都宮市簗瀬町2313	〒321-0933	TEL(028)632—5105(代表)	FAX(028)632—5205
	太田営業所	太田市高林東町2375	〒373-0825	TEL(0276)38—6571(代表)	FAX(0276)38—5508
	高崎営業所	高崎市問屋町西1-3-22	〒370-0007	TEL(027)361—4806(代表)	FAX(027)361—9139
	首都圏支店	東京都北区豊島8-4-8	〒114-0003	TEL(03)3927—1151(代表)	FAX(03)3927—1160
	立川営業所	立川市高松町1-22-3	〒190-0011	TEL(042)519—5271(代表)	FAX(042)528—2382
	千葉営業所	松戸市高塚新田95-5	〒270-2222	TEL(047)312—8330(代表)	FAX(047)312—8338
	横浜営業所	横浜市戸塚区原宿4丁目7-13	〒245-0063	TEL(045)852—4008(代表)	FAX(045)852—5540
	甲府営業所	山梨県中巨摩郡昭和町西条2491-2	〒409-3866	TEL(055)268—1567(代表)	FAX(055)268—1569
	関東地区 サービスセンター	東京都北区豊島8-4-8	〒114-0003	TEL(03)3911—1131(代表)	FAX(03)3927—1130
信越地区	新潟支店	三条市曲渕3-2-15	〒955-0864	TEL(0256)32—2126(代表)	FAX(0256)35—8519
	新潟東営業所	新潟市東区江南1-6-41	〒950-0855	TEL(025)286—9131(代表)	FAX(025)286—3313
	長野営業所	長野市大豆島5312	〒381-0022	TEL(026)221—5111(代表)	FAX(026)221—0039
	松本営業所	松本市笹賀大久保原7852	〒399-0033	TEL(0263)26—0051(代表)	FAX(0263)25—9961
	信越地区 サービスセンター	三条市曲渕3-2-15	〒955-0864	TEL(0256)32—2129(代表)	FAX(0256)32—2137
北陸地区	金沢支店	金沢市駅西新町1-1-25	〒920-0027	TEL(076)260—0567(代表)	FAX(076)260—0775
	富山営業所	富山市田中町2-3-15	〒930-0985	TEL(076)444—0567(代表)	FAX(076)444—0611
	福井営業所	福井市和田東1-607	〒918-8237	TEL(0776)23—0567(代表)	FAX(0776)23—0580
	北陸地区 サービスセンター	金沢市駅西新町1-1-25	〒920-0027	TEL(076)260—0038(代表)	FAX(076)260—0738
東海地区	名古屋支店	名古屋市熱田区桜田町16-11	〒456-0004	TEL(052)746—6600(代表)	FAX(052)884—6551
	岐阜営業所	岐阜市六条南2-7-8	〒500-8358	TEL(058)268—7555(代表)	FAX(058)268—7550
	静岡営業所	静岡市駿河区高松2-15-30	〒422-8034	TEL(054)238—0005(代表)	FAX(054)238—0006
	沼津営業所	沼津市西椎路888-1	〒410-0303	TEL(055)968—6210(代表)	FAX(055)968—6212
	津営業所	津市高茶屋3-29-38	〒514-0819	TEL(059)234—8471(代表)	FAX(059)234—8472
	東海地区 サービスセンター	名古屋市熱田区桜田町16-11	〒456-0004	TEL(052)746—6603(代表)	FAX(052)884—6554
近畿・四国地区	大阪支店	吹田市南金田1-8-47	〒564-0044	TEL(06)6380—2111(代表)	FAX(06)6386—7262
	彦根営業所	彦根市正法寺町南出78	〒522-0024	TEL(0749)24—6239(代表)	FAX(0749)26—2116
	京都営業所	京都市伏見区竹田段川原町211	〒612-8414	TEL(075)643—2002(代表)	FAX(075)643—0870
	福知山営業所	福知山市荒河東町68	〒620-0061	TEL(0773)22—0827(代表)	FAX(0773)23—7592
	神戸営業所	神戸市西区枝吉5-132	〒651-2133	TEL(078)922—2431(代表)	FAX(078)922—2438
	高松営業所	高松市今里町1-8-5	〒760-0078	TEL(087)835—1711(代表)	FAX(087)835—0160
	松山営業所	松山市西垣生町780-3	〒791-8044	TEL(089)968—7351(代表)	FAX(089)968—7353
	近畿・四国地区 サービスセンター	吹田市南金田1-8-47	〒564-0044	TEL(06)6386—5670(代表)	FAX(06)6386—5588
中国地区	広島支店	広島市安佐南区祇園3-27-20	〒731-0138	TEL(082)871—3310(代表)	FAX(082)871—3306
	米子営業所	米子市日久美町235-1	〒683-0035	TEL(0859)33—8157(代表)	FAX(0859)23—0709
	岡山営業所	岡山市北区辰巳35-103	〒700-0976	TEL(086)243—7751(代表)	FAX(086)243—7191
	徳山営業所	周南市徳山字一ノ井手5631-4	〒745-0882	TEL(0834)22—5567(代表)	FAX(0834)22—5589
	中国地区 サービスセンター	広島市安佐南区祇園3-27-20	〒731-0138	TEL(082)871—3315(代表)	FAX(082)871—0272
九州地区	福岡支店	福岡市博多区東比恵2-2-40	〒812-0007	TEL(092)474—5771(代表)	FAX(092)474—5775
	北九州営業所	北九州市小倉北区愛宕2-6-4	〒803-0828	TEL(093)592—8611(代表)	FAX(093)592—8666
	長崎営業所	長崎県西彼杵郡時津町左底郷浜田74-1	〒851-2106	TEL(095)882—7710(代表)	FAX(095)882—7767
	熊本営業所	熊本市尾ノ上1-11-12	〒862-0913	TEL(096)367—7361(代表)	FAX(096)369—6323
	大分営業所	大分市三佐1-19-7	〒870-0108	TEL(097)523—5161(代表)	FAX(097)523—5162
	宮崎営業所	宮崎市霧島3-59-2	〒880-0032	TEL(0985)29—1680(代表)	FAX(0985)25—0685
	鹿児島営業所	鹿児島市田上7-16-5	〒890-0034	TEL(099)281—1321(代表)	FAX(099)281—1252
	九州地区 サービスセンター	福岡市博多区東比恵2-2-40	〒812-0007	TEL(092)474—6001(代表)	FAX(092)474—6414
沖縄地区	沖縄営業所	宜野湾市宇地泊738 シーサイド・パーク102	〒901-2227	TEL(098)897—5677(代表)	FAX(098)897—5679

15121102

株式会社

〒955−8510　新潟県三条市東新保7−7
TEL(0256) 32-2111〈代表〉
ホームページ　http://www.corona.co.jp/

コロナ 石油ストーブ保証書

型式	FF-AG6812H
★お客様	お名前　　　　　　　　　　　　　　　様
	ご住所　〒(　　　-　　　) 電話　(　　　　)　　　ー

本書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。
お買いあげの日から左記期間中故障が発生した場合は、本書をご提示の上、お買いあげの販売店に修理をご依頼ください。

●ご販売店様へ
お買いあげ日、貴店名、住所、電話番号をご記入の上(★印欄に記入のない場合は、無効となります)、本書をお客様へお渡しください。

★お買いあげ日	年　　　月　　　日
保証期間	本体……………………お買あげ日より　1年間
	燃焼部分……………お買あげ日より　3年間

★販売店	住所・店名 電話　(　　　)　　　ー

●お客様へお願い
お手数ですが、ご住所、お名前、電話番号をわかりやすくご記入ください。
販売店の記載がないときは、それを証明する領収書などが必要となりますので、一緒に保管してください。

《無料修理規定》

1.取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で保証期間中に故障した場合には、お買いあげ販売店が無料修理致します。
2.保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、お買いあげの販売店に依頼してください。なお、離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
また、本品を直接送付される場合の送料は、お客様の負担となります。
3.ご転居の場合は事前にお買いあげ販売店にご相談ください。
4.ご事情により、本保証書に記入してあるお買いあげ販売店に修理がご依頼できない場合には、コロナお客様ご相談窓口をご覧の上、お近くの窓口にお問合せください。
5.次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
(イ)使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
(ロ)お買あげ後の取付場所の移動、輸送、落下等による故障および損傷
(ハ)火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害および、変質灯油、不純灯油、異質油(灯油以外の油又は混入)による故障および損傷
(ニ)業務用としての使用、車両、船舶への搭載など一般家庭用以外に使用された場合の故障および損傷
(ホ)本書にお買いあげ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。通信販売なのでご購入したときは、商品の送り状・領収書などの提示がない場合
(ヘ)本書の提示がない場合
(ト)点検整備、および消耗品(Oリング、各種パッキン類、ゴム製送油管)の交換をされる場合
(チ)定期点検の費用
6.本書は日本国内においてのみ有効です。This guarantee is valid in Japan only.
7.本書は再発行致しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
従ってこの保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買いあげの販売店または、お近くのコロナお客様ご相談窓口にお問合せください。
※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは取扱説明書(本書26ページに記載)をご覧ください。
※アフターサービスや製品についてのお問い合せは、お買いあげの販売店または、お近くのコロナお客様ご相談窓口(本書30ページに記載)にお問い合わせください。

株式会社

〒955−8510　新潟県三条市東新保7−7
TEL(0256) 32-2111〈代表〉
ホームページ　http://www.corona.co.jp/

205WA0884　-0 1 2 3 Ⓝ 24